

[研究報告]

G県G地区の特別養護老人ホームの現状と
看護職が認識している看護活動の課題：第3報

小野幸子¹⁾ 原敦子¹⁾ 林幸子¹⁾ 坂田直美¹⁾
 田中克子¹⁾ 兼松恵子¹⁾ 奥村美奈子¹⁾ 小田和美¹⁾
 梅津美香¹⁾ 古川直美¹⁾ 北村直子¹⁾ 齋藤和子¹⁾
 平山朝子²⁾

The Present Condition and the Problems about the Nursing Care of the Nurses
Who Are Working at the Nursing-Homes on G District in G Prefecture : Part 3

Sachiko Ono¹⁾, Atsuko Hara¹⁾, Sachiko Hayashi¹⁾, Naomi Sakata¹⁾,
 Katsuko Tanaka¹⁾, Keiko Kanematsu¹⁾, Minako Okumura¹⁾, Kazumi Oda¹⁾,
 Mika Umezu¹⁾, Naomi Hurukawa¹⁾, Naoko Kitamura¹⁾, Kazuko Saito¹⁾,
 and Asako Hirayama²⁾

はじめに

本学では、看護実践研究指導事業として、G県下特別養護老人ホーム（以下特養と省略）に働く看護職の活動の質的向上を目指し、個別訪問面接研修（プログラム1）と、これをもとに検討された課題をテーマにワークショップ（プログラム2）を開催している。これはG県が自然的・経済的・社会的条件から地域整備上、5地域に区分されていることをもとに、県内の全特養を5地区に区分して実施するもので、平成13年度はHとS地区、平成14年度はCとT地区、平成15年度はG地区と、3年計画で開始されたものである。

本報告は、平成13・14年度¹⁾に引き続き、平成15年度に実施したG地区の全特養の現状と看護職が認識している課題を検討したものである。この検討結果は、引き続きG地区のワークショップにおいて、現状に即したテーマの手がかりを得ることができると考える。

．方法

1. 対象

岐阜県下G地区の全特養23施設の看護職である。

2. 個別訪問面接研修の方法と倫理的配慮

個別訪問面接研修は、全施設に個別に訪問し、対象である看護職との面接において、単にデータ収集のための一方的調査ではなく、特養における看護職の活動を意識化できるよう、また、その現状に理解を示して、ともに課題を明らかにして共有できるよう意図したものである。そこで、まず施設長に電話、もしくは直接会い、本事業の趣旨や方法を説明して了解を得た。次いで、看護職の紹介を受け、同様に説明して了解を得、日程調整のもと、成熟期看護学講座教員12名が1～2名ずつ組んで2～3施設を担当し、個別訪問した。当日、面接研修可能な看護職に面接内容を記述した用紙を持参して配布・説明するとともに、それにそって面接し、記載してもらった。当日、面接できなかった看護職については、面接研修を受けた看護職より面接用紙の配付を依頼し、記載してもらい、別途返送してもらった。なお、得られた情報の取り扱いには施設名や個人名が特定されないよう配慮した。

3. 面接内容

対象（看護職）の属性として、年齢、性別、所有資格、職位、現職場での経験年数、現職場以前での経験年

1) 岐阜県立看護大学 成熟期看護学講座 Nursing of Adults, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 学長 President, Gifu College of Nursing

数, 現職場以前の職場, 対象(看護職)の所属施設について, 設置主体, 定床数, 開設年代, 併設施設, 職員構成, 入所者の背景として, 年齢, 性別, 介護度, 痴呆度, 平均在所日数, 同年度の施設内死亡と病院死亡であり, 平成14年度の事態として聞いた。看護活動については, 「日常的に実践している看護行為」「大切に思う看護行為」「より充実(強化)したい看護行為」に分けて聞いた。なお, 看護活動をなす看護行為の項目は, 訪問看護実態調査³⁾で用いられている調査項目を参考に, 【病状観察・心理的支援などの行為】10項目, 【療養上の世話】12項目, 【医療的な処置】15項目, 【記録・報告・連携】7項目の総計44の看護行為をあらかじめ列挙し, 該当する行為に を記してもらった。

4. 個別訪問面接研修の時期: 個別訪問面接研修は平成15年6月1日から同年8月10日であった。

5. 分析方法: いずれも単純集計し, 傾向をみた。

結果

個別訪問時に面接研修できた看護職は各施設1~3名(計52名)であり, 別途返送分を合わせると, 総計82名であった。なお, 1名の面接研修に要した時間は1時間30分前後であった。

1. 対象(看護職)者の属性について

対象の年齢は22~78歳, 平均年齢が43.8±11.6歳, 現職場での経験年数は20日~20年, 平均経験年数が3.5±4.3年, 現職場以前の看護職としての経験年数は0~58.5年, 平均経験年数が13.5±12.1年であった。年齢区分, 性別, 所有資格, 職位, 現職場での経験年数の内訳, 現職場以前の職場は表1に示すとおりであった。

2. 対象(看護職)者の所属施設について

施設の設置主体, 定床数, 開設年代, 併設の施設・事業とその種類, 職員構成は, 表2に示すとおりであった。

3. 入所者の背景について(表3)

入所者の背景は, 年齢において, 回答が得られた21施設では53~104歳であり, 12施設で65歳未満の入所者がみられたものの1~4名と少なく, いずれの施設も75歳以上の後期高齢者が占める割合が80%を越え, 100歳以上の入所者がいる施設は8施設であった。

性別では2施設で男性入所者が多かったものの, 女性入所者が70%以上を占めた施設が21施設みられ, そのう

ち80%を占めた施設が13施設みられた。

介護度では, 要支援が4施設でみられたがいずれも1名のみであった。要介護1度の占める割合が30%台を占めたのは1施設のみで, 要介護4~5では30%台が3施設, 40%台が6施設, 50%台が7施設, 60%台が3施設, 70%台が4施設みられ, 要介護4~5の占める割合が高い施設が多い傾向を示した。

痴呆度は, 21施設から回答が得られ, 「痴呆なし」が54.0%, 37.5%が各々1施設みられたものの, 痴呆度を明らかにした20施設では, 要介護4と5を合わせた割合が最も低い施設でも40%台が3施設であり, 50%台が3施設

表1 対象(看護職)の属性

		人数 (n=82)	%	
年 齢	20歳代	8	9.8	
	30歳代	24	29.3	
	40歳代	19	23.2	
	50歳代	22	26.8	
	60歳代	3	3.7	
	70歳代	2	2.4	
	未記入	4	4.9	
性 別	女性	80	97.6	
	男性	2	2.4	
所有資格	看護師	40	48.8	
	准看護師	42	51.2	
職 位	看護師長(看護・介護責任者, 医務責任者を含む)	3	3.7	
	主任・係長	16	19.5	
	スタッフ	61	74.4	
	相談員	1	1.2	
	機能回復訓練指導員	1	1.2	
	未記入	0	0.0	
現職場での 経験年数	1年未満	23	28.0	
	1年~5年未満	35	42.7	
	5年~10年未満	11	13.4	
	10年~15年未満	8	9.8	
	15年~20年未満	2	2.4	
	20年~	1	1.2	
	未記入	2	2.4	
	現職場以前 での経験年 数	1年~5年未満	16	19.5
		5年~10年未満	16	19.5
		10年~15年未満	19	23.2
15年~20年以上		12	14.6	
20年~25年未満		4	4.8	
25~30年未満		3	3.7	
30~35年未満		4	4.8	
35~40年未満		2	2.4	
40年以上		3	3.7	
未記入		3	3.7	
現職場以前 の職場 (複数回答)	病院・総合病院	68	82.9	
	医院・個人病院	5	6.1	
	老人保健施設	2	2.4	
	特別養護老人ホーム	2	2.4	
	訪問看護	3	3.7	
	身体障害者施設	1	1.2	
	保健所	1	1.2	
	その他	6	7.3	
	なし	12	14.6	
	未記入	9	10.9	

設, 60%台が4施設, 70%台が5施設, 80%台が3施設であり, 88%を占めた施設が1施設みられた。

入所者の平均在所日数は, 不明を除き10施設が1ヶ月から4年10ヶ月と幅がみられた。

施設内死者数及び病院死者数は, 22施設から回答が得られ, 前者は0名(12施設)から13名(1施設), 後者は0名(1施設)から21名(1施設)と, いずれも施設によるばらつきがみられた。

外泊・外出状況は, 21施設から回答が得られ, 1施設を除いて, 「ほとんどなし」を占める割合が高い傾向を示した。また, 面会状況は, 21施設から回答が得られ, 「定期的」が0~93.0%にわたる一方, 「ほとんどなし」が2.0~90%にわたり, 施設によるばらつきがみられた。

4. 看護活動について (表4)

1) 『日常的に実践している看護行為』について

『日常的に実践している看護行為』の上位7位を挙げると, 【病状観察・心理的支援などの行為】では, 「病状観察・情報収集」「服薬管理」「感染症の予防・処置」「緊急時の対応や処置」の4行為, 【療養上の世話】では, 「移動の援助」の1行為, 【医療的な処置】では, 「浣腸・排便」「吸引・吸入など」「褥創の処置」の3行為, 【記録・報告・連携】では, 「看護師間・介護者との申し送り」の1行為総計9行為であり, いずれも約80%以上の看護職が日常的な看護行為としていた。一方, 10%に満たず, 日常的ではない看護行為は, 「レスピレーターの管理」「透析」「気管切開の処置」「中心静脈栄養」であった。

2) 『大切に思う看護行為』について

『大切に思う看護行為』の上位7位を挙げると, 【病状観察・心理的支援などの行為】では, 「病状観察・情報収集」「環境整備」「療養指導」「生活のリズム・仕方の把握」「死の看取り」の5行為, 【療養上の世話】では, 「歯磨き・口腔清拭」「理学療法士・作業療法士以外によるリハビリテーション」の2行為, 【記録・報告・連携】では, 「家族との連携」「施設内の保健医療従事者との連携」「施設外の保健医療従事者との連携」の3行為の総計10行為であり, 約47~65%の看護職が大切に思う看護行為であった。【医療的な処置】では, 30%前後の看護職が大切とした看護行為が6行為みられたものの, 「気管切開の処置」「中心静脈栄養」「透析」「レスピレー

ターの管理」は, 10%に満たなかった。

3) 『より充実(強化)したい看護行為』

『より充実(強化)したい看護行為』の上位7位を挙げると, 【病状観察・心理的支援などの行為】では, 「病状観察・情報収集」「療養指導」「死の看取り」「緊急時の対応や指示」「感染症の予防・処置」の5行為,

表2 所属施設について

		施設数 (n=23)
設置主体	社会福祉法人	22
	広域連合	1
定床数	50床	5
	60床	4
	70床	3
	80床	5
	100床	5
	110床	1
	開設年代	1970年代
	1980年代	2
	1990年代	11
	2000年代	6
併設施設・事業	なし	1
	ある	22
併設施設・事業の内訳 (複数回答)	ショートステイ	22
	デイサービス	19
	在宅介護支援センター	14
	ケアハウス	8
	グループホーム	3
	養護老人ホーム	2
	訪問看護ステーション	2
	老人保健施設	1
	病院	1
	介護実習・普及センター	1
	訪問介護	4
	訪問入浴	2
	配食サービス	1
職員構成	看護職	
	専任の看護師のみ	1
	専任とパートの看護師	1
	専任の看護師と専任の准看護師	2
	専任の看護師と、専任とパートの准看護師	3
	専任の看護師と、専任と嘱託の准看護師	1
	専任とパートの看護師と専任の准看護師	4
	専任とパートの看護師と、専任・パートの准看護師	3
	専任とパートと嘱託の看護師と専任の准看護師	1
	パートの看護師と、専任とパートの准看護師	1
	パートの看護師と、専任とパートと嘱託の准看護師	1
	専任の准看護師のみ	2
	専任とパートの准看護師	3
医師		
嘱託	21	
専任	1	
パートと嘱託	1	
介護福祉士		
専任のみ	12	
専任とパート	6	
専任とパートと嘱託	2	
専任と嘱託	1	
雇用なし	1	
未記入	2	
ケアワーカー		
専任のみ	5	
専任とパート	13	
専任とパートと嘱託	3	
専任と嘱託	1	
未記入	1	
生活指導員	専任	23
理学療法士	専任のみ	1
作業療法士	嘱託のみ	2
	看護職が兼任	1
	雇用なし	19
栄養士		
専任のみ	1	
専任とパート	1	
嘱託	21	

表3 入所者の背景について

施設名	年齢					性別		介護度							痴呆度			平均在所年数	施設内死亡者	外出・外泊状況			面会状況							
	最低	最高	65歳未満	65~75歳	75~85歳	85~100歳	100歳以上	女性	男性	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	痴呆なし	軽度			中等度	重度	在宅	病死者	定期的	不定期的	なし	定期的	不定期的	なし	
A	70					不明	57(81.4)	13(18.6)	0	6(86)	6(86)	11(15.7)	18(25.7)	29(41.4)	不明	不明					不明	5	5	2	5	63	25	14	31	
B	60	65	100	0	6(10.0)	19(31.7)	34(56.7)	1(1.7)	54(90.0)	6(10.0)	0	9(15.0)	13(21.7)	21(35.0)	17(28.3)	11(18.3)	16(26.7)	14(23.3)	19(31.7)		2年6ヶ月	0	6	4	3	53	25	30	5	
C	60	68	100	0	9(15.0)	20(33.3)	30(50.0)	1(1.7)	49(81.7)	11(18.3)	0	3(5.0)	4(6.7)	12(20.0)	18(30.0)	23(38.3)	1(1.7)	13(21.7)	21(35.0)	25(41.7)		3年10ヶ月	4	3	0	1	59	15	41	4
D	80	66	98	0	9(11.3)	34(42.5)	37(46.3)	0	56(70.0)	24(30.0)	1(1.3)	4(5.0)	14(17.5)	16(20.0)	20(25.0)	25(31.3)	8(10.0)	15(18.8)	22(27.5)	35(43.8)		不明	0	19	2	5	73	6	31	43
E	110	63	99	1(0.9)	10(9.1)	44(40.0)	55(50.1)	0	92(83.6)	18(16.4)	0	13(11.8)	27(24.5)	22(20.0)	27(24.5)	21(19.1)	10(9.1)	21(19.1)	43(39.1)	36(32.7)		3年8ヶ月	1	9	1	18	91	15	91	4
F	80	67	104	0	11(13.8)	25(31.3)	43(53.8)	1(1.3)	64(80.0)	16(20.0)	1(1.3)	0	10(12.5)	11(13.8)	23(28.8)	35(43.8)	5(6.3)	12(15.0)	17(21.3)	46(57.5)		不明	0	9	2	1	77	8	19	53
G	80	65	96	0	13(16.3)	32(40.0)	35(43.8)	0	67(83.8)	13(16.3)	0	4(5.0)	18(22.5)	13(16.3)	14(17.5)	31(38.8)	30(37.5)	16(20.0)	18(22.5)		不明	0	12	0	6	74	15	51	12	
H	100	不明	4(4.0)	16(16.0)	55(55.0)	25(25.0)	0	92(92.0)	8(8.0)	1(1.0)	8(8.0)	11(11.0)	10(10.0)	32(32.0)	38(38.0)	15(15.0)	25(25.0)	35(35.0)		不明	2	21	3	20	77	20	50	30		
I	50	66	97	0	9(18.0)	18(36.0)	23(46.0)	0	38(76.0)	12(24.0)	1(2.0)	4(8.0)	8(16.0)	14(28.0)	10(20.0)	1(2.0)	6(12.0)	28(56.0)	15(30.0)		不明	0	9	0	2	48	0	20	30	
J	50	61	96	1(2.0)	8(16.0)	17(34.0)	24(48.0)	0	42(84.0)	8(16.0)	0	4(8.0)	16(32.0)	14(28.0)	8(16.0)	5(10.0)	20(40.0)	20(40.0)		4年4ヶ月	1	4	1	1	48	2	3	45		
K	60	74	98	0	3(5.0)	16(26.7)	41(68.3)	0	50(83.3)	10(16.7)	0	3(5.0)	6(10.0)	7(11.7)	20(33.3)	24(40.0)	5(8.3)	不明			4年10ヶ月	8	0	1	20	39	5	15	40	
L	50	53	101	2(4.0)	4(8.0)	20(40.0)	23(46.0)	1(2.0)	38(76.0)	12(24.0)	0	7(14.0)	12(24.0)	11(22.0)	9(18.0)	11(22.0)	6(12.0)	19(38.0)	16(32.0)		不明	0	6			不明				
M	100	61	95	1(1.0)	18(18.0)	32(32.0)	49(49.0)	0	82(82.0)	18(18.0)	0	5(5.0)	20(20.0)	26(26.0)	26(26.0)	15(15.0)	19(19.0)	47(47.0)		3年2ヶ月	0	13	8	3	89	35	40	25		
N	80	62	99	2(2.5)	8(10.0)	28(35.0)	42(52.6)	0	57(71.3)	23(23.8)	0	10(12.5)	10(12.5)	13(16.3)	16(20.0)	31(38.8)	9(11.3)	33(41.3)	24(30.0)	14(17.5)		4年1ヶ月	13	8	5	16	59	12	55	13
O	70	68	102	0	13(18.6)	23(32.9)	33(47.1)	1(1.4)	56(80.0)	14(20.0)	1(1.4)	3(4.3)	7(10.0)	10(14.3)	21(30.0)	28(40.0)	3(4.3)	20(28.6)	34(48.6)	13(18.6)		1ヶ月	10	3	65	5	10	30	30	
P	50	62	98	1(2.0)	9(18.0)	15(30.0)	25(50.0)	0	41(82.0)	9(18.0)	0	0	6(12.0)	16(32.0)	13(26.0)	15(30.0)	27(54.0)	3(6.0)	2(4.0)	18(36.0)		不明	6	4	2	0	48	25	20	5
Q	70	67	96	0	5(7.1)	35(50.0)	30(42.9)	0	57(81.4)	13(18.6)	0	8(11.4)	9(12.9)	17(24.3)	14(20.0)	22(31.4)	不明				2年1ヶ月	0	12			不明				
R	50	68	91	0	8(16.0)	23(46.0)	19(38.0)	0	39(78.0)	11(22.0)	0	8(16.0)	11(22.0)	12(24.0)	13(26.0)	6(12.0)	11(22.0)	23(46.0)	8(16.0)		1年8ヶ月	0	4	0	2	48	10	31	9	
S	100	60	101	1(1.0)	15(15.0)	27(27.0)	56(56.0)	1(1.0)	74(74.0)	26(26.0)	0	12(12.0)	23(23.0)	28(28.0)	27(27.0)	10(10.0)	10(10.0)	30(30.0)		不明	不明	0	18	4	5	91	93	5	2	
T	100	55	101	1(1.0)	7(7.0)	41(41.0)	50(50.0)	1(1.0)	74(74.0)	26(26.0)	0	16(16.0)	15(15.0)	21(21.0)	27(27.0)	21(21.0)	15(15.0)	30(30.0)	45(45.0)	10(10.0)		1年3ヶ月	0	3	5	20	75	55	28	17
U	100	60	100	2(2.0)	7(7.0)	42(42.0)	48(48.0)	1(1.0)	25(25.0)	75(75.0)	0	13(13.0)	19(19.0)	26(26.0)	29(29.0)	13(13.0)	不明				10ヶ月	0	20	6	27	67	38	25	19	
V	60	61	94	1(1.7)	10(16.7)	21(35.0)	28(46.7)	0	26(43.3)	34(56.7)	0	3(5.0)	7(11.7)	20(33.3)	19(31.7)	11(18.3)	6(10.0)	25(41.7)	23(38.3)	6(10.0)		不明	1	0	8	30	22	26	30	3
W	80	59	97	2(2.5)	6(7.5)	30(37.5)	42(52.6)	0	61(76.3)	19(23.8)	0	5(6.3)	18(22.5)	19(23.8)	26(32.5)	12(15.0)	4(5.0)	5(6.3)	27(33.8)	44(55.0)		2ヶ月	不明	不明	4	9	67	25	47	8

表4 看護職の「日常的に実施している・大切に思う・より充実(強化)したい看護行為」の実態

看護行為	日常的に実践している看護行為		大切に思う看護行為		より充実(強化)したい看護行為		
	n=73	%	n=68	%	n=59	%	
病状観察・心理的支援などの行為	1 病状観察・情報収集	68	93.2	34	50.0	21	35.6
	2 服薬管理	67	91.8	26	38.2	9	15.3
	3 環境整備	33	45.2	42	61.8	12	20.3
	4 療養指導	44	60.3	39	57.4	21	35.6
	5 社会資源の活用などの調整・介護機器のアドバイス	18	24.7	31	45.6	13	22.0
	6 生活のリズム・仕方の把握	39	53.4	32	47.1	11	18.6
	7 死の看取り(ターミナルケア)	26	35.6	33	48.5	22	37.3
	8 緊急時の対応や指示	58	79.5	29	42.6	24	40.7
	9 検査補助	49	67.1	23	33.8	4	6.8
	10 感染症の予防・処置	60	82.2	26	38.2	20	33.9
療養上の世話	11 移動の援助	66	90.4	19	27.9	8	13.6
	12 食事・栄養の援助	57	78.1	28	41.2	13	22.0
	13 歯磨き・口腔清拭	32	43.8	32	47.1	18	30.5
	14 清潔の援助(入浴介助)	49	67.1	28	41.2	10	16.9
	15 清潔の援助(全身清拭)	37	50.7	30	44.1	11	18.6
	16 清潔の援助(その他)	29	39.7	18	26.5	6	10.2
	17 整容・衣類の着脱の援助	51	69.9	20	29.4	8	13.6
	18 排泄の援助	46	63.0	24	35.3	11	18.6
	19 理学療法士・作業療法士以外によるリハビリテーション	27	37.0	34	50.0	24	40.7
	20 体位変換	41	56.2	26	38.2	15	25.4
医療的な処置	21 特異-問題-行動のケア	35	47.9	30	44.1	21	35.6
	22 その他	1	1.4	0	0.0	2	3.4
	23 点滴の管理	38	52.1	11	16.2	2	3.4
	24 中心静脈栄養	6	8.2	5	7.4	2	3.4
	25 透析	1	1.4	5	7.4	2	3.4
	26 ストーマー人工肛門への処置	34	46.6	11	16.2	6	10.2
	27 酸素療法	27	37.0	12	17.6	5	8.5
	28 レスピレーターの管理	0	0.0	5	7.4	3	5.1
	29 気管切開の処置	4	5.5	4	5.9	5	8.5
	30 疼痛の看護	45	61.6	23	33.8	13	22.0
31 経管栄養	57	78.1	23	33.8	5	8.5	
32 モニターの測定	23	31.5	12	17.6	6	10.2	
33 褥創の処置	64	87.7	24	35.3	18	30.5	
34 カテーテルの管理	48	65.8	19	27.9	7	11.9	
35 吸引・吸入など	58	79.5	22	32.4	9	15.3	
36 浣腸・排便	67	91.8	20	29.4	8	13.6	
37 その他	4	5.5	0	0.0	0	0.0	
記録・報告・連携	38 入院時の看護記録, 問題リスト, 看護計画, 経過記録, 体温表, サマリー	57	78.1	26	38.2	30	50.8
	39 カンファレンス	52	71.2	30	44.1	20	33.9
	40 看護婦間・介護者との申し送り	63	86.3	29	42.6	25	42.4
	41 家族との連携	43	58.9	44	64.7	26	44.1
	42 施設内の他の保健医療従事者との連携	39	53.4	34	50.0	16	27.1
	43 施設外の保健医療従事者との連携	39	53.4	38	55.9	20	33.9
	44 その他	3	4.1	0	0.0	0	0.0

【療養上の世話】では、「理学療法士・作業療法士以外によるリハビリテーション」「特異 問題 行動のケア」の2行為, 【記録・報告・連携】では、「入院時の看護記録, 問題リスト, 看護計画, 経過記録, 体温表, サマリー」「カンファレンス」「看護婦間・介護者との申し送り」「家族との連携」「施設外の保健医療従事者との連携」の5行為の総計12行為であった。【医療的な処置】では、約30%の看護職が大切にしたい看護行為が1行為のみであり、「点滴の管理」「中心静脈」「透析」「酸素療法」「レスピレーターの管理」「経管栄養」の6行為は10%に満たなかった。

4) 『日常的に実践し, かつ, 大切に思い, かつ, より充実(強化)したい看護行為』について

『日常的に実践し, かつ, 大切に思い, かつ, より充実(強化)したい看護行為』を満たす看護行為を上位7位でみると, 【病状の観察・心理的支援などの行為】の「病状観察・情報収集」のみであり, 『大切に思い, かつ, より充実(強化)したい看護行為』は, 【病状の観察・心理的支援などの行為】の「病状観察・情報収集」「療養指導」「死の看取り」, 【療養上の世話】の「理学療法士・作業療法士以外によるリハビリテーション」, 【記録・報告・連携】の「家族との連携」「施設外の保健医療従事者との連携」の総計6行為であった。

考察

1. 対象(看護職)者の特徴

G地区の看護職者の特徴は, 30~50歳代で現職場の経験年数が1~5年未満, 1~10年の病院経験をもつ女性の看護スタッフが多かったといえよう。なお, これまでの4地区の結果⁴⁵⁾ではみられなかった70歳代の対象が2名存在したのも本地区の特徴といえよう。

2. 施設の特徴

G地区の施設の特徴として, 社会福祉法人で, 定床数が80・100床の1990年代に開設され, 何らかの併設施設・事業を有する施設が多く, 職員構成では, 医師・栄養士は嘱託が, 介護福祉士と生活指導員は専任が, 理学療法士・作業療法士は雇用なしが多い傾向を示し, さらに, 看護職の雇用形態は様々であった。なお, 1施設とはいえず, 専任の医師の存在は, これまでの4地区ではみられなかったことである。

3. 入所者の特徴

入所者は、いずれの施設も中等度から重度の痴呆を有する女性の後期高齢者で、かつ、要介護4～5で外出・外泊の機会が少ない、いわゆる認知障害のある脆弱な高齢者の入所者の占める割合が高いといえよう。なお、特養入所適用でない要支援の入所者が4施設でみられたが、これは介護保険適用以前（措置入所）からの入所者で、経過措置として入所している高齢者と捉えられる。

4. 看護活動について

1) 『日常的に実践している看護行為』、『大切に思う看護行為』及び『より充実（強化）したい看護行為』について

『日常的に実践している看護行為』は、現実実践している行為であり、『大切に思う看護行為』と『より充実（強化）したい看護行為』は、看護職の各看護行為に対する認識と捉えることができる。G地区の看護職の看護行為の現状をみると、『日常的に実践している看護行為』よりも『大切に思う看護行為』、さらに『大切に思う看護行為』よりも『より充実（強化）したい看護行為』が占める割合が低かった。これは、看護職が現実的に実践している看護行為について、実践しているほどには大切に思ったり、充実（強化）したい行為とは認識していないことを示している。

2) 『日常的に実践している看護行為』について

上位7位に挙げられた9行為は、生活の場である特養において、入所者の健康生活を支える上で、看護職に求められている看護学的専門知識や技術の行為といえよう。しかし、【病状観察・心理的支援などの行為】において、「社会資源の活用などの調整・介護機器のアドバイス」や「死の看取り」の占める割合が低かった。これは、前者は介護保険の導入による制約や、調整役として生活指導員やケアマネージャーがその役割を果たしている結果ではないだろうか。また、介護機器は、各施設で準備され、使用可能な機器のアドバイスを介護職員へ委譲していることが考えられる。しかし、個々の入所者の日常生活動作行動を維持・向上する上で、看護職が看護学的視点から適切な介護機器の導入やアドバイスができる必要がある。また、「死の看取り」の割合が低かったのは、G地区の分析結果を待たなければならないが、これまでの4地区の実態⁴⁵⁾や特養看護職を対象にした検討会⁶⁾な

どから、看取りをする方針の施設とない施設があることに由来すると捉えられよう。

【医療的な処置】では、殊に日常的行為として10%に満たなかった4行為は、特養が福祉施設であり、かつ介護保険適用施設として、医療的処置に限界があることによると捉えられよう。しかし、生活の場とはいえ、入所者の特徴で挙げたように、後期高齢者の入所の増大、介護度の重度化の実態がある。高齢者は老化現象に加え、何らかの疾患や障害を有していることが多く、それが介護度の重症化を招来していることも事実であり、医療依存度は必然的に高くなるといえよう。【医療的な処置】が必要な高齢者を療養型を含む医療施設へ転院することが適切であるとするならば、高齢者の大半がその適用になる。特養における医療的処置をどこまで可能にするかは、職員の大半が介護職員で占め、医師・看護体制上の問題などから未だ明確ではないことが、指摘されており⁷⁻⁹⁾、施設の考え方によって受け入れられたり受け入れられなかったりしているのが現状である。特養の機能についても厚生労働省の見解、それに対する全老人福祉施設協議会の反論¹⁰⁾など論議になっていることでもあり、高齢者やその家族の立場に立った解決が急がれる課題といえよう。

3) 『大切に思う、かつ、より充実（強化）したい看護行為』について

上位7位でみた『大切に思う、かつ、より充実（強化）したい看護行為』の6行為は、G地区の特養看護職が入所者の健康生活を支える看護専門職の果たすべき役割として重要であり、かつ、より強化すべき課題となる看護行為と認識していると捉えられる。すなわち、これらの看護行為をより充実するために、各施設における現状の詳細についての情報交換をもとに、その取り組みを検討する必要がある。つまり、今後予定されているワークショップのテーマや内容は、これらをもとに組むことが求められていると捉えられよう。

まとめ

本研究は、G県G地区の全特養23施設、82名の看護職を対象に、施設・入所者及び看護活動に関する現状と看護職が認識している課題を検討した。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 回答者(看護職)の特徴は, 70歳代の2名の存在と, 30~50歳代, 現職場の経験年数が1~5年未満, で1~10年の病院経験をもつ女性の看護スタッフが多かった。

2. 施設は, 1990年代開設の社会福祉法人で, 定床数が80・100床の何らかの併設施設を有している施設が多く, 職員構成では, 医師・栄養士は嘱託が, 介護福祉士と生活指導員は専任が, 理学療法士・作業療法士は雇用なしが多い傾向を示し, 看護職の雇用形態は様々であった。また, 専任の医師が1施設みられたのも特徴であった。

3. 入所者は, 中等度~重度痴呆の後期高齢女性が多く, 要介護4~5で外出・外泊の機会が少ない傾向を示した。

4. 看護活動について

1) 『日常的に実践している看護行為』よりも『大切に思う看護行為』が, さらに『より充実(強化)したい看護行為』の占める割合が低かった。

2) 『日常的に実践し, かつ大切に思い, かつ, より充実したい看護行為』は1行為であったが, 『大切に思い, かつ, より充実(強化)したい看護行為』の上位6行為は, ワークショップのテーマの手がかりになろう。

なお, 本結果は, G地区特養の現状と看護職が認識している看護活動の課題の全容を検討することであったため, データ収集方法に違いがあったが, それらをまとめて分析している。このことから回答内容に多少のバイアスがあったことは否めない。また, 看護職の属性, 施設の特徴および入所者の背景と, 看護活動との関連を検討していない。これらについては, 今後の課題として, G県5地区全体の現状と課題を検討する際に明らかにしたいと考えている。

引用・参考文献

- 1) 小野幸子, 坂田直美, 早崎幸子ほか: G県特別養護老人ホームに働く看護職の看護活動に関する意識, 岐阜県立看護大学紀要, 2(1); 83-89, 2001.
- 2) 小野幸子, 坂田直美, 早崎幸子ほか: G県特別養護老人ホームの現状と看護職が認識している看護活動の課題: 第2報, 岐阜県立看護大学紀要, 3(1); 36-41, 2001.
- 3) 厚生省大臣官房統計情報部: 訪問看護統計調査, 厚生統計協会, 1998.

- 4) 早崎幸子, 小野幸子, 坂田直美ほか: G県特別養護老人ホームにおける看取りの実態 - その1 G県下HとS地区の看護職を対象に - 岐阜県立看護大学紀要, 3(1); 29-35, 2002.
- 5) 林幸子, 小野幸子, 原敦子ほか: G県特別養護老人ホームにおける看取りの実態 - その2 G県下C・T地区の看護職を対象に -, 日本老年看護学会, 第8回学術集会抄録集, 63, 2003.
- 6) 小野幸子, 坂田直美, 早崎幸子ほか: 特別養護老人ホームに働く看護職との共同研究を目指した検討会の歩み - 中間報告 - 岐阜県立看護大学紀要, 3(1); 122-126, 2002.
- 7) 篠崎良勝: 介護職と看護職の業務の責任と分担 介護現場から -, 看護管理, 11(1); 36-39, 2001.
- 8) 大橋佳子, 富田真紀子, 藤原泰子ほか: パネルディスカッション - ヘルパーの医療行為を考える -, 老人ケア研究, 18; 14-35, 2003.
- 9) 篠崎良勝: 介護現場の医療行為 - その実態と方策を探る - 民間病院問題研究所, 日本医療企画; 2000.
- 10) 老施協: 全国老施協だより, No.03, 6月15日号, 2003.

(受稿日 平成15年2月17日)